科目名			担当教員	
感情・人格心理学			武村　尊生	
科目コード	単位数	スクーリング単位	履修方法	配当年次
FF3550	2	1	RorSR (講義)	2年以上
履修登録条件		「福祉心理学」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録できます。		
生成 AI 利用レベル		レポート　：　C	試験（スクーリング含む）　：　C	

※2018 年度以降に入学した方が対象の科目ですが、2017 年度以前入学者で「人格心理学」（科目コード：FF2511・FF2528、4 単位）を単位修得していない方は、この科目を履修登録できます。単位修得済の方は履修登録できません。

科目の概要

■科目の内容

人のこころは十人十色、千差万別とも言われています。確かに、一人として同じ人間はおらず、それぞれ「その人らしさ」を持っています。その人特有のものの見方や捉え方、感じ方、行動などは、人格特徴、性格傾向、パーソナリティとも呼ばれています。これらを学問的に解明するために、長年たくさんの研究が行われてきました。また、ある状況に出くわした際、そこに生じる感情や行動も人によって異なります。その違いにも、各個人の人格が深くかかわっているといってよいでしょう。

感情・人格心理学では、人格理解の基礎となる認知と感情と行動の関係、心理学における人格の概念、人格の発達や変化、人格に関する様々な理論（類型論、特性論）などを学びます。

この科目で学ぶ内容には、応用心理学分野はもちろんのこと、精神医学や行動科学などの近接領域の様々な科目の基礎となるものが多く含まれています。今後、さらなる勉強を進めるためにも、本科目で扱う内容を理解し、知識を身につけてください。

■到達目標

1 ）感情に関する理論及び感情喚起の機序について概説できる。
2 ）感情が行動に及ぼす影響について概説できる。
3 ）人格の概念及び形成過程について説明できる。
4 ）人格の類型、特性等について概説できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「人間理解力」「実証的分析力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価 50%＋スクーリング評価 or 科目修了試験 50%

■教科書・参考図書

【教科書】（ 2）は「福祉心理学」と共通）

１）岡田斉編『社会福祉士シリーズ２　心理学理論と心理的支援　第３版』（第９章の１・2、第３章など）弘文堂、2018 年（第３版でなくても可）

２）小松紘・木村進・渡部純夫・皆川州正編著『現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学（改訂版)』八千代出版、2019 年

（最近の教科書変更時期）2019 年４月

※教科書 2）は「福祉心理学」で配本のため、この科目では教科書 1）のみ配本いたします。

（スクーリング時の教科書）上記教科書 1）『心理学理論と心理的支援』は必ず所持ください。

【参考図書】

島義弘編『ライブラリ　心理学を学ぶ６　パーソナリティと感情の心理学』サイエンス社、2017 年

加藤孝義著『パーソナリティ心理学―自分を知る・他者を知る』新曜社、2001 年

河合隼雄著・河合俊雄編『ユング心理学入門』岩波現代文庫、2009 年

前田重治著『続　図説臨床精神分析学』誠信書房、1994 年

諸富祥彦著『カール・ロジャーズ入門　ー自分が“自分”になるということ』コスモス・ライブラリー、1997 年

諸富祥彦著『自己成長の心理学―人間性／トランスパーソナル心理学入門』コスモス・ライブラリー、2009 年

A.H.マズロー著　小口忠彦訳『人間性の心理学―モチベーションとパーソナリティ』（改訂新版）産業能率大学出版部、1987 年

A.H.マズロー著・小口忠彦訳『完全なる人間―魂のめざすもの』（第２版）誠信書房、1998 年

大渕憲一・堀毛一也編『パーソナリティと対人行動』誠信書房、1996 年

小川捷之・詫摩武俊・三好暁光編『パーソナリティ』（臨床心理学大系第２巻）金子書房、1990 年（自我・自己、人格の障害について詳しい）

M.セリグマン著　山村宜子訳『オプティミストはなぜ成功するか―ポジティブ心理学の父が教える楽観主義の身につけ方』（新装版）パンローリング、2013 年

瀧本孝雄著『性格のタイプ―自己と他者を知るための 11 のタイプ論』サイエンス社、2000 年

詫摩武俊監修『性格心理学ハンドブック』福村出版、1998 年

詫摩武俊・瀧本　孝雄・鈴木乙史・松井豊共著『性格心理学への招待―自分を知り他者を理解するために』（改訂版）サイエンス社、2003 年

丹野義彦著『性格の心理―ビッグファイブと臨床からみたパーソナリティ』サイエンス社、2003 年

戸田まり・サトウタツヤ・伊藤美奈子著『グラフィック性格心理学』サイエンス社、2005 年

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

心理学は、個人や集団の理解、行動の予測、適応や成長の援助などを目的としています。とりわけ、人格心理学は、その人らしさをどう理解するのか、そしてその人の行動をどの程度予測することができるのか、その人らしさの強みを活かし、弱みを補って適応や成長を図るにはどうしたらよいのかが問われているでしょう。また、そのためにさまざまな見方や理論が展開されています。そのような問題意識をもって学んでほしいと思います。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	人格・性格・気質とは	心理学における人格の定義、人格と性格と気質の違い、研究の課題と臨床における応用について学ぶ。
2	クレッチマーのタイプ論、ユングのタイプ論	タイプ論の基本的な考え方、利点と欠点について学ぶ。代表的なタイプ論として、クレッチマーの類型論とユングの類型論を取り上げて、その考え方と応用について学ぶ。
3	タイプA・C、アイゼンクのタイプ論	人格と健康の関連として、タイプAとタイプC、アイゼンクのタイプ論について学ぶ。
4	キャッテルとアイゼンクの特性論、特性５因子モデル	特性論の基本的な考え方、利点と欠点について学ぶ。代表的な特性論として、キャッテルとアイゼンクの特性論、特性　５因子モデルを取り上げ、その考え方と応用について学ぶ。
5	状況論・相互作用論	ミッシェルによる状況論と「人―状況論争（一貫性論争）」と、その後の展開、特に相互作用論について学ぶ。人の行動に影響を及ぼしている状況の力やナラティブ（物語）についても学ぶ。
6	フロイトの力動論	代表的な力動的構造論として、フロイトの精神分析理論を取り上げ、その考え方と応用について学ぶ。
7	アドラー心理学、ユング心理学、アサジョーリの精神統合理論	無意識について、フロイトとは異なる視点からとらえたフロイトの弟子たちの考え方とその応用について学ぶ。
8	総括と質疑応答	これまでの人格理論について総括し、補足する。質疑応答を行う。
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

パワーポイントおよび配付資料を中心に講義を進めます。途中、人格理解のためのワークも行います。
教科書と視聴覚教材も適宜使用します。

■スクーリング　評価基準

試験では、とくに到達目標記載内容についての理解を問います（持込可）

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

教科書 1）の第３章と教科書 2）の第３部第２章は読んできてください。

レポート学習

■在宅学習 15 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	人格の定義	心理学における人格の定義、人格と性格と気質の違いについて学ぶ。	日常生活で用いている「人格」の意味と心理学で用いている「人格」の意味の違いについて考えてみましょう。

2	感情に関する理論及び感情喚起の機序	感情に関する理論（ジェームズ=ランゲ説、キャノン=バード説、シャクターの理論など）、感情がどのようにして喚起されるのかについて学ぶ。	「悲しいから泣く」「泣くから悲しい」「笑顔を見ると幸せな気持ちになる」。日常生活での経験に照らし合わせて、考えてみましょう。
3	感情が行動に及ぼす影響	感情（抑うつ、怒り、高ぶりなど）が行動に及ぼす影響について学ぶ。	抑うつではやる気が出ず、怒りから事故や事件になることもあります。日常生活での経験に照らし合わせて、考えてみましょう。
4	類型論	類型論の考え方、利点と欠点について理解する。代表的な理論として、クレッチマーの類型論とシェルドンによる研究、ユングの類型論、その他の類型論について学ぶ。	クレッチマーの着想は臨床経験から、ユングの着想はフロイトとアドラーの見方の違いがどこからくるのかと考える中で生まれました。理論が生まれた背景のエピソードにも目を向けるとよいでしょう。 自分自身の類型について考えてみましょう。
5	特性論	特性論の考え方、利点と欠点について理解する。代表的な理論として、キャッテルとアイゼンクの研究、特性５因子モデルについて学ぶ。	人格特性はオルポートによって提唱されました。オルポートはフロイトのもとを訪れ、失望したことから、新たな理論が作られました。特性論は因子分析という統計的手法によって発展し、今日盛んとなっている質問紙法の人格検査をもたらしました。
6	状況論と相互作用論	ミッシェルによる状況論と「人ー状況論争（一貫性論争）」と、その後の展開、特に相互作用論について理解する。	ミッシェルは、平和部隊としてナイジェリアに派遣される若者達の派遣後の適応などをロールシャッハ・テストや特性質問紙人格検査によって予測しましたが、結果は思わしくありませんでした。そのことから、人格の定義そのものに疑問を投げかけました。
7	力動的構造論	力動的構造論の考え方、利点と欠点について理解する。代表的な理論として、レヴィンの場の理論、フロイトの精神分析理論、ユング心理学、アドラー心理学、アサジョーリによる精神統合理論について学ぶ。	力動とは、２つの力のぶつかり合いを意味します。そこで、まず、その人が心の中でどのような葛藤をいだいているのか、考えてみましょう。
8	交流分析理論	交流分析における自我状態の構造分析、脚本分析（禁止令とドライバー）、交流パターン分析、ゲーム分析、ストローク理論、基本的構え、時間の構造化などについて学ぶ。	交流分析では、自律的な人間をめざし、そのためには「気づき」「自発性」「親密性」の要素を高めることが必要と考えています。交流分析によって、気づき、自発性、親密性がどのように高められるのかを考えてみましょう。
9	人間性心理学	代表的な理論として、マズローの欲求階層説と自己実現論、ロジャーズの自己理論について学ぶ。	人間性心理学が生まれた背景にも目を向けながら学ぶとよいでしょう。そして、自分自身の欲求の段階、経験と自己概念の不一致について考えてみましょう。
10	学習論、認知論	恐怖症、攻撃行動、無気力、社会的行動が学習によるという見方について学ぶ。認知の個人差が課題解決や社会的感受性、不安や抑うつと関連していることを学ぶ。	自らの認知や行動について自己観察し、認知や行動の変容が生じやすいような工夫を考えてみましょう。

11	自我・自己	自我・自己の概念と分類、自我・自己の形成、自我・自己の機能、自我の強さ（成熟度）について、学ぶ。	自分という意識が行動にどのように影響しているか、自己観察してみましょう。「これでいいんだ」「これも成長のための経験、学ぶ機会」と自己受容してみましょう。
12	自己実現	自己実現・自己超越のとらえ方、自己実現の成長過程、自己実現の留意点について学ぶ。	歴史上の人物や有名人の自己実現について考えてみましょう。 吉田松陰は「私心さえ除き去るならば、進むもよし退くもよし、出るもよし出ざるもよし」といいました。私心について考えてみましょう。
13	人格の形成・発達と変化	人格の形成における遺伝的要因、個体内要因、環境的要因、主体的要因について学ぶ。人格の変化と役割性格の変化について学ぶ。	リンカーンは「40 歳を過ぎたら、自分の顔に責任を持たなくてはならない」といいましたが、人格も生涯発達することが可能です。 自らの人格形成について考えてみましょう。
14	人格の障害・病理	葛藤と欲求不満、防衛機制について学ぶ。パーソナリティ障害について、症状やタイプの違いについて学ぶ。	問題行動の背後にある葛藤や欲求不満について考えてみましょう。 パーソナリティ障害はパーソナリティの偏りを意味します。タイプごとに歴史上の人物や有名人を考えてみましょう。
15	人格と健康との関連	タイプ A とタイプ C、H 因子と D 因子、うつ病親和性性格、ハーディネスとレジリエンシーについて学ぶ。	人格とストレスが相まって健康に影響を及ぼすことが知られています。心疾患になりやすい人、癌になりやすい人、うつ病になりやすい人、ストレスに強い人、ストレスに打ちひしがれても回復する人について考えてみましょう。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	力動的構造論の一つをとりあげ、その力動的構造論の観点から、心理的不適応の具体例について考察しなさい。 ※下記、アドバイスを熟読の上、取り組むこと。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

【1 単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

【2 単位めアドバイス】

テキスト 1）の第３章の２のＤ（力動的構造からみる）と第 11 章の１のＡ（精神分析と分析心理学）あるいは第 11 章の１のＥ（交流分析）をよく読んで取り組んでください。さらに、テキストだけではなく、各自でいろいろ調べて考察してください（テキスト以外に少なくとも２冊以上の専門書を参考にし、引用・参考文献として明示してください）。力動的な人格理論は、障害や心理的不適応を説明するために臨床的知見から得られた理論でもあります。心理的不適応の具体例については、社会的事件、身近な体験、映画やドラマ、小説、文献等に掲載されている事例などを取り上げて理解を試みてください（自分で創作した例は認められません）。客観的視点からの考察を求めま

すので、自身や身内の不適応を題材にすることは避けてください。そしてテキストやそれ以外の文献などを参考に、力動的構造論の立場から、その具体例の人に対してどのような支援や援助を行ったら心理的適応を促すことになるかについても考察してください。

科目修了試験

■評価基準

内容理解が一番のポイントになる。また、キーワードの記載、記述の分量（1 問あたり 400～1,200 字程度）も評価の対象となる。